

学長式辞

待田昌二

学長の待田です。皆さん入学おめでとうございます。神戸松蔭女子学院大学の教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。ご列席いただいたご家族、関係者の皆様にも、感謝申し上げます。

本学の入学式は、すでにお分かりのようにキリスト教の礼拝形式で行っています。本学の歴史は、今から 125 年前にイギリス人宣教師がキリスト教伝道を目的として設立した松蔭女学校にさかのぼります。今も我々は、入学式や卒業式といった行事を礼拝形式で行っています。また、キリスト教について学ぶ授業もあります。しかし、当然ですが、キリスト教の信仰を強制するものではありません。キリスト教の形式になれない人は、外国の文化を体験するような、新鮮な気持ちで経験してもらえればと思います。これからはばらくの間、神戸松蔭という文化の中で過ごすことになったわけですから、入学式だけでなく、クリスマス行事をはじめとする学内行事や礼拝を体験してみてください。

この神戸松蔭という文化は神戸という土地と不可分です。阪急六甲の駅から大学まで歩いて登った人は気がついたかもしれませんが、二つの比較的大きな教会の横を通ります。このような土地柄は神戸が港町であることと関係しています。今年神戸の港が開かれてから 150 年という記念の年にあたります。150 年前はどんな時代でしょうか。明治時代になる前の年で、まだ江戸時代でした。港が開かれてすぐに明治時代になり、海外の人や文化が入ってきて国際都市としての神戸が形作られていきます。大学になってから神戸に来た人はもちろんですが、神戸で育った人も、神戸以外から来た人との交流の中で、他の街にはない神戸の魅力を改めて考えてもらえればと思います。

神戸松蔭という文化の中で過ごしてほしいという話をしていますが、本学はまた六甲山のふもとにあります。この神戸から西宮にかけての六甲山麓の地域は、大阪と神戸の間という意味で阪神間とも呼ばれます。落ち着いた住宅地であるとともに、大学、美術館などが多い、文化的な地域です。特に、女子大学や女子高が多い点は阪神間の特徴のひとつです。阪急電車の車内や駅で目にする宝塚歌劇のポスターとあいまって、他にはない女性的な文化を形作っています。阪神間の文化を吸収するとともに、皆さん自身が阪神間の文化を形作ってください。

ところで現在は落ち着いたイメージのある阪急電車ですが、宝塚歌劇の創設、最初のターミナルデパートなど新しいことに取り組んできたことで有名です。駅の自動改札機の実用化も阪急電車が最初だったそうです。大阪や神戸ではほとんどの駅が自動改札ですから見慣れたものになっている人が多いと思いますが、いつからあるかご存知でしょうか。1967 年、今から 50 年前に阪急北千里駅に導入されたのが実用化としては最初だそうです。定期券だけのために一

部の駅で設置されている時期がしばらく続いた後、阪急電車など関西の私鉄を中心に広まっていきました。皆さんが生まれるまでには都市部の主な駅は自動改札になりました。

私が学生の頃までは、駅員さんが紙の切符に専用の道具で穴を開けたり、定期券を眼で見てチェックしているのが普通でした。梅田のような大きな駅では、10人以上の駅員が並んで、次々通り過ぎる人の定期券を確認していたのを憶えています。自動改札を通るよりも速いスピードで人が通っていましたが、ベテランの駅員さんは偽の定期券を見破っていました。しかし、自動改札の導入によって改札に必要な人は少なくなり、駅員の人数自体かなり減りました。

同じような変化で私の記憶に残っているのは、銀行での ATM の導入です。ATMは何の略かご存知でしょうか。Aは automatic あるいは automated、Tは teller、Mは machine の頭文字です。tellerは銀行の窓口係の意味ですから、銀行の窓口係の仕事をする機械と言うことになります。最初の頃はお金を降ろすための機械でしたので、cash dispenser 自動支払い機という名前で ATM ではありませんでした。まだまだ人の代わりとは言えなかったわけです。しかし、急速に進化して預け入れや送金など様々なことができるようになり、窓口係の仕事をする機械、ATM となりました。

少し前に、ITすなわち情報技術の進歩によって今後多くの職業が、AIすなわち人工知能に接続した機械などにとって代わられるという予測が発表されて話題になりました。例えば、車の自動運転はすでに実用化に向けた試験が始まっています。まさに皆さんの世代に関係することですので、本当にそうになってしまうのか不安な人もいると思います。しかし、人がしていた仕事を機械が代替することは、今に始まったことではありません。ほぼ 300 年前にイギリスではじまった産業革命以降、それまで人がしていた仕事はどんどん機械に置き換えられています。自動改札や ATM もその流れの一つです。機械化による人員削減はその都度大きな問題として懸念されてきました。しかし、機械化の進展とともに失業率が年々上がっているわけでもありませんし、機械化が進んだ先進国では人々が徐々に貧しくなっているわけでもありません。長い目で見れば、むしろ機械化によって豊かになっているといえるでしょう。

しかし、これは、あくまで長期的に見ればということです。自動改札機の導入でそれまで改札の仕事をしていた人は、別の仕事に変わらなければなりません。また、ATMの導入で金融機関の窓口業務をしていた人の採用はずいぶん減ってしまいました。技術の進歩によって、人の仕事自体が無くなってしまうことはありませんが、別の仕事に移ったり職を変えたりしなければならない可能性が高くなります。就職した後も、新しいことを学んで、新しい仕事に適応していかなければならないという機会が今後は多くなっていくと考えられます。

すなわち、これから皆さんが身につける必要のあることは、学ぶ力を身につける、学び方を学ぶということです。学び方を学ぶというのは、難しそうな話ですが、その方法を、私が皆さんにお教えします。それは、ある分野を一度きちんと学んでみることです。これからの社会は、予測するのが難しく、卒業してからも新しいことを学ばないといけないのであれば、大学や大学院で専門的な勉強をするのは一見無駄なように思えるかもしれませんが、しかし、与えられた

課題を手を抜かずきちんとこなすことで知識がはじめて身につく、他人に対して伝わるように人前で発表するあるいは文章にすることで、あいまいだった理解がはっきりとした理解になる、といったことはどんな分野でも共通しています。今は、自分自身で色々な知識を持たなくてもネットを調べればたいいのことがわかりますが、その分、信用できる情報と信用できない情報を区別することが必要となっています。ある分野を一度きちんと学んでみて、その分野の情報をネットで見てみるという経験をすることによって、ネットに出ている情報のうちどれが信頼できる情報かを判断するセンスが身につきます。

皆さんは、大学を卒業した後、大学で学ぶ専門分野が直接役立ちそうにない仕事をするかもしれません。それでも、大学においてある分野を一度きちんと学んだという経験は役に立ちます。なんか、うまく丸め込んで勉強させようとしていると思うかもしれませんが、その通りです。でも一度積極的に丸め込まれてください。

さて、このスピーチで皆さんに二つのことをお願いしました。大学に入れば、神戸松蔭という文化、神戸や阪神間の文化を吸収して、さらにその文化を形作る一員になってほしいということ、そして、学び方を学んでほしいということです。学ぶ力を身につける一番の方法は、大学に入学して始まる専門的な勉強に取り組むことです。これからの学生生活において、ぜひこの二つのことを胸にとどめおいてください。